

予算等審査特別委員会 6月14日~15日

予算等審査特別委員会（議長を除く36人の議員で構成、委員長小笠原隆男議員、副委員長山蔭正義議員）は、条例5件、専決処分5件、その他4件の14議案について付託を受けて2日間の審議を行いました。

今定例会では、新市の総合計画基本構想が提案され、新市の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全14議案が原案のとおり可決されました。



活発な質疑が行われた委員会審議

寺沢牧野の肥料散布の遅れに議論集中

寺沢牧野の肥料散布の遅れについて

【質問】 寺沢牧野で牧草地への肥料散布が遅れ一番草の刈り取りが絶望的となり、粗飼料確保の面で利用者から不安の声が出ている。大きな問題ではないか。

【答弁】 業者の登録、契約、入札の手続きに時間を費やし、適期を失ったものでお詫びする。もっと迅速に行うべく来年へ向けて関係部署が連携を密にして取り組む。

【質問】 責任のない結果として損失を生んでいる。もっと深刻に受け止めて対処すべきだ。本所と宮守総合支所とのあり方を真剣に検討するなど課題が多い。今回のやるべきことをやらないでの損害発生について、責任ある答弁を求める。

【答弁】 当たり前のことを当たり前に進めることをきちっとしなかった点、市として遺憾であったと反省する。



畜産振興にかかせない寺沢牧野

転作配分について

【質問】 昨年、県より配分された転作面積より多く転作しても、12月には県内で一番多い転作増加率で配分を受けた。作付けできるのにかかわらず水張り減反も多く見られる。18年度は転作配分面積より約70ha多いと聞いているが、この部分に米を作付けすると約1億円の増収が見込まれる。したがって転作作付け配分面積に近い面積にできないものか。

【答弁】 今まで、配分面積目標をクリアしないとペナルティーもあることから超えないようにしていた。しかし、年度途中で作付けを増やせば不公平を生じかねない。今後は各関係機関と協議、検討しルール作りをして100%近い作付けが出来るようにする。

「日本のふるさと遠野」の表現について

【質問】 「日本のふるさと遠野」という言葉の表現は、全国の自治体への配慮を欠いたものではないか。他自治体に対して失礼に当るのではないのか。日本は、全国の自治体で構成されているのであり、国民一人ひとりが自分のふるさとを持っている。我が遠野市だけが日本のふるさとだと言い切ってよいものか。使っている言葉と、よくない言葉がある。仮に適切だと思うなら、今後商標登録をしないのか。

【答弁】 商標登録よりも、市民に共通理解していただくことが最優先であり、市外の方にとっても日本のふるさとだと認めてもらえるようなまちづくりをしていきたい。郷土愛を大切にしていってまちづくりに取り組んでいくという気持ちをみんなを持ちたいということからあえてこの言葉を使っている。